

「フラワー長井線沿線地域公共交通網形成計画（案）」の
パブリックコメントに寄せられた意見への対応について

1 意見の募集期間

平成28年2月1日（月）から平成28年2月10日（水）

2 御意見の内容

- ・新たな利用促進策について：2件
- ・高齢者の利用促進について：1件
- ・宮内駅長「もっちい」の活用について：1件
- ・沿線施設との連携について：1件
- ・企業サポーター制度について：1件
- ・シンポジウムの開催について：1件
- ・自治体の財政支援について：1件 合計8件

3 提出された御意見の内容及び山形鉄道公共交通活性化協議会の考え方

No.	項目	内容	協議会の考え方
1	新たな利用促進策について (40代:女性)	<p>子供が春から高校に進学しましたが、定期代が高いと感じます。私のほかにも同じ地区で親が送迎している家族が多数いらっしゃると思います。利用者数が少ないために運賃を上げることは、経営上、必要があるとは思いますが、結果としては利用者の抵抗感を招いているように感じます。</p> <p>今後、新しい体制での経営努力により収益を見込んでおられるようですので、新たなサービスに期待したいです。</p>	<p>フラワー長井線の利用者は、少子化等による人口減少の影響から一貫して減少を続けており、更なる利用者の減少を招きかねないことから、運賃の値上げを見送った経過があります。</p> <p>当計画においては、持続可能な公共交通網を形成するため、今後、各種の施策を展開していくこととしております。特に山形鉄道(株)については地域公共交通の軸と考えており、沿線住民の方々の利用促進と利便性向上を図るため、沿線施設とのセット乗車券や家族割引切符の販売など、新たな施策を実施してまいります。</p>
2	新たな利用促進策について (30代:男性)	<p>フラワー長井線の運賃が高いため、地元の人が利用しないのだろうと思います。</p> <p>例えば、お年寄りが車を手放した時に電車を利用しやすくなる特典があるとか、子供と一緒に乗ると安くなるとかを考えると乗客は増えないと思</p>	<p>沿線住民の方々の利用促進を図るため、これまであまり周知されていなかった「土・休日フリー切符（大人1人に子供2人までが1,000円で乗り放題）」のPRや、新たに「家族割引切符」や「運転免許返納者への運賃割引制度」等を検討してまいります。</p>

		<p>ます。自動車利用が多いこの地域では、電車を使ってどこかへ行こうと思いません。</p> <p>駅の近くにショッピングモールとか公園や、親子が過ごせる遊戯施設がないと、これまでどおりだと思しますので、ぜひ前向きな政策をお願いします。</p>	<p>また、今般、沿線 2 市 2 町が策定した総合戦略に沿った、まちづくりと公共交通が連携した施策展開(フラワー長井線を活用したコンパクトシティの形成等)を図っていきたくて考えております。</p>
3	<p>高齢者の利用促進について (70代:女性)</p>	<p>近年では高齢化社会に伴い、高齢ドライバーが増えていると思いますが、反面に事故が多くなってきていると感じます。私たちの年代は、他の市町に買い物などに出かける場合、車ではなくフラワー長井線やJRなどを利用し、車窓から眺める美しい景色を眺めたり、有形文化財登録された駅舎で談話したり、近くのカフェでお茶を楽しみながらと、くつろぐことを有意義に感じています。このような環境は、地域の活性化につながりますし、鉄道利用により自動車事故が減少するとも考えられます。</p> <p>また、同時に、運転免許返納制度の内容充実を期待するとともに、高齢の方が利用しやすいフラワー長井線の利用環境になればと思います。</p>	<p>進展する高齢化により、高齢者の日常生活においては自立的な行動が求められることとなり、公共交通への依存度がますます高まっていくと考えられます。</p> <p>高齢者の方々の利便性を向上させるため、集会室としての駅舎の利用や市営バス等との接続利便性の向上、運転免許返納者への運賃割引制度等、新たな施策を検討してまいります。</p>
4	<p>宮内駅長「もっちい」の活用について (30代:女性)</p>	<p>以前、高校に通学するため、宮内駅を利用していました。その後、宮内駅では「もっちい」駅長が就任するなど明るい話題がありましたが、現在は少しトーンダウンした印象を受けます。他県の鉄道会社では、動物駅長の就任により飛躍的な経済効果があったと聞きます。</p> <p>最近、「もっちい」のLINEスタンプが販売されたと聞き、懐かしさを感じ、フラワー長井線を応援するためにスタンプを購入してみようと思いました。</p>	<p>今年 1 月末、地域内外への情報発信力の強化と収益確保策の一環として、山形鉄道(株)のホームページを全面リニューアルするとともに、宮内駅のウサギ駅長「もっちい」をデザインしたLINEスタンプ^(※1)の販売、SNS^(※2)のLINE@^(※3)による情報発信等に取り組んでおります。</p> <p>今後も、集客・増収につなげるため、新たな商品開発や販売戦略の強化を図るとともに、IT^(※4)を活用し情報発信を行ってまいります。</p> <p>※1: LINE で提供されているメッセージに挿入できるイ</p>

		<p>鉄道会社で、このような取組みはなかなか無いと思いますので、ぜひ、SNSなどで情報発信し、他社に無いユニークなサービス提供をしていって欲しいと思います。</p>	<p>ラスト。 ※2：ソーシャルネットワークサービス。インターネット上の交流を通じて個人間のつながりを支援するサービス。(例)Facebook、LINE、ツイッター等 ※3：ラインアット。LINEを通じて商店や飲食店情報など各種の情報を配信するサービス ※4：インフォメーションテクノロジー。情報を取得・保存・伝送するための技術。(例)インターネット、携帯電話等</p>
5	<p>沿線施設との連携について (女性)</p>	<p>南陽市文化会館が10月にオープンし、いろいろな催物が開催され、大分盛況のようです。計画(案)の113頁には、イベント時の公共交通機関の利用促進を考えておられますように、何らかの形で格安な運賃等で乗れるイベント列車の運行など、家族みんなが楽しく文化会館などの施設において観覧できるような仕組みを考えていただければと思います。</p>	<p>フラワー長井線の沿線には、「白鷹町あゆむ」「南陽市文化会館」といった文化施設のほか、今後建設される予定の「長井市かわとみちの駅(仮称)」などの交流拠点施設や「白鷹町やな公園」「南陽市熊野大社」などの観光施設が数多く立地しています。</p> <p>これらの施設で行われるイベントと公共交通が連携した企画切符の販売や臨時ダイヤの編成など、沿線住民の方々が利用しやすい仕組みづくりを検討してまいります。</p>
6	<p>企業サポーター制度について (40代:男性)</p>	<p>フラワー長井線の車両外観は観光客からすると、魅力を感じないような気がします。そのためには、モンテディオ山形などのように多くのスポンサー企業と提携する戦略が必要だと感じています。</p> <p>計画書を拝見しますと、日本郵政グループ3社の大企業による車両ラッピングを行った実績があったので、まだまだ手の入れようはあると感じます。観光客から脚光を浴びるラッピング車両を期待しております。</p>	<p>フラワー長井線の存続のためには、沿線企業からの支援も大きな力になると考えており、企業サポーター制度の導入を検討しているところです。</p> <p>具体的には、沿線企業から協力いただき、エコ通勤時における利用拡大や企業広告を施したラッピング列車の運行などを行っていきたいと考えております。沿線企業の皆様方には、ぜひ御協力をいただければと考えております。</p>
7	<p>シンポジウムの開催について (60代:男性)</p>	<p>フラワー長井線の理解促進やマイルール意識醸成のためシンポジウム開催を検討されていることに感心します。</p> <p>フラワー長井線の利用を真剣に考えるために一堂に会する場合は、近年では無かったことですし、私たちが将来の</p>	<p>フラワー長井線の存続と利用促進を図るためには、地域にとってフラワー長井線がいかに重要なものであるかを沿線住民の方々に改めて御理解いただく必要があると考えており、地域公共交通の重要性と今後の展開等について、有識者等からの御</p>

		<p>子供たちに引き継いでいく手段として貴重なものと感じます。開催を楽しみにしております。</p>	<p>意見を伺う機会を作ってまいりますので、その際にはぜひ足をお運びくださいますようお願いいたします。</p>
8	<p>自治体の財政支援について (70代:男性)</p>	<p>これまで、フラワー長井線の支援を継続していただき、感謝を申し上げます。これから先の存続を考えると、国、県や市町からの財政支援は当然に必要となります。</p> <p>我々、地域住民も現状を理解し、地域の鉄道を支えていかなければならないと思います。これからも交通弱者に優しい公共交通機関として、なお一層のご努力を期待申し上げます。</p>	<p>山形鉄道(株)の持続的な経営体制を構築するため、平成28年度より、自治体からの支援対象をこれまでの「赤字補填」から「鉄道施設の維持・修繕に係る経費」に変更するとともに、鉄道用地を沿線自治体が保有することといたしました。</p> <p>このことにより、自治体が鉄道事業への関与が位置づけられ、その支援対象も明確になります。また、山形鉄道(株)においては、運行に専念できる環境が生まれるため、経営改善に向かう意識高揚にもつながり、利用される方々の利便性の向上にもつながると考えております。</p>